

サンガラトナ・法天・マナケさん



インドで天台宗を  
布教する住職

した大本堂には、中央に  
釈迦、左右に宗祖最澄と  
カースト制下の被差別民  
の解放運動指導者アンベ  
大乗仏教が説く、人々の  
救済に尽くす「菩薩僧を

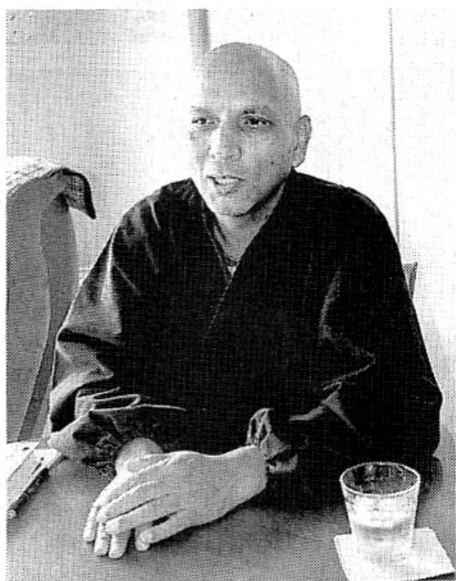
する経済成長の陰で、カ  
ースト差別だけでなく、  
貧富の差の拡大が表面化  
している。だからこそ、

私のよりどころは

比叡山です

インド中部ナグプール  
近郊の天台宗(総本山、  
ドカル(1891~19  
56年)が並ぶ。この3像  
育てることを目標に掲  
げる。

比叡山延暦寺)寺院「イ  
ンド禅定林」の住職を  
務める。開設20周年を記  
念して、2月にほぼ完成  
代インド仏教を取り巻く  
社会状況を表している。  
インドでは世界が注目  
の同志だった父の勧めで



Sangharatna Hoten Manake  
ナグプール出身。83年叡山学院卒。  
インドに85年帰国。著書に「波瀾万丈  
！ インドの大地に仏教復興」(春秋  
社)。45歳。

の言葉「依身より依所」。  
「自分によりどころがあ  
れば、自然と改心する。  
個々人が抱える問題を受  
け止めてくれる場所が社  
会に必要な」と説く。

現地では、仏教は差別  
撤廃など社会改革を望む  
思想と見られがちだが、  
自らの信徒から感じるの  
は、激しい心ではなく、  
純粋な信仰心の強さだ。

「禅定林をその人たちの  
よりどころにしたい」  
と言葉に力を込めた。  
文と写真・服部正法

平等を掲げ、ヒンズー  
教から仏教への集団改宗  
を先導したアンベドカル  
71年、9歳で大津市の延  
山学院長(78)を師匠に修  
暦寺に「留学」。地元の  
行に励み、百日回峰行  
も達成した。  
中で過ごし、非行に走っ  
た時期もあったが、再び  
仏道に進むことを決意し  
た。かみしめたのは最澄